

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2010
課題番号：19530817
研究課題名（和文）昭和26年版小学校社会科学習指導要領の編集過程と
カリキュラム構造の研究
研究課題名（英文）A Study about the Curriculum Structure and Editing Process of the
Course of Study in Social Studies for Elementary Schools 1951
研究代表者
木村 博一（KIMURA HIROKAZU）
広島大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：10186330

研究代表者の専門分野：社会科教育学
科研費の分科・細目：教育学・教科教育学
キーワード：社会科教育、小学校教育、カリキュラム、戦後教育改革、カリキュラム

1. 研究計画の概要

本研究の研究計画は、概ね次の通りである。

- (1) 国立国会図書館などに所蔵されている連合国軍総司令部民間情報教育局 (GHQ/CIE) 教育課の会議記録や週間記録を調査し、昭和26年版小学校社会科学習指導要領の編集過程を記した史料を丹念に収集する。
- (2) 収集した会議記録や週間記録を翻訳する。
- (3) 翻訳した会議記録や週間記録を整理し、昭和26年版小学校社会科学習指導要領の編集過程をまとめていく。
- (4) 他方で、戦後初期の学習指導要領の編纂過程に関する「戦後教育資料」が数多く所蔵されている国立教育政策研究所の教育図書館において調査を行い、昭和26年版小学校社会科学習指導要領の編集過程を側面から明らかにしていく。
- (5) 昭和26年版小学校社会科学習指導要領の編集に携わった長坂端午、上田薫、大野連太郎らの回顧録や著作・論文などを一つでも多く収集するために、国立国会図書館、国立教育政策研究所教育図書館、筑波大学や名古屋大学などの図書館に所蔵されている当時の

教育雑誌などを丹念に調査・収集する。

- (6) 昭和26年版小学校社会科学習指導要領の編集過程を体系的に整理し、まとめていく。
- (7) 以上の作業を踏まえて、昭和26年版小学校社会科学習指導要領のカリキュラム構造の分析と再評価を行っていく。

2. 研究の進捗状況

昭和26年版小学校社会科学習指導要領の編集過程については、担当者の一人であった上田薫が「1950年の末には、内容的にほぼ完成していたといえることができる。C.I.Eの係官はアンブローズ女史であったが、すでにこの時期にはあまりさしはさむこともなかった」（上田薫編集代表『社会科教育史資料2』東京法令、p.327）と回顧している。そのため、昭和26年版小学校社会科学習指導要領は、長坂・上田・大野ら文部省側の編集担当者が主導する中で編集されたものと考えられてきた。

ところが、これまでの本研究の進展によって、①C.I.Eの係官はアンブローズではなく、ロバート・エヴァーツ (Robert Ewerz) であつ

たこと、②1950年3月から9月にかけてエヴァーツと長坂・上田・大野ら文部省側の編集担当者との間で会議が重ねられていること、③その会議では、社会科の意義や目標、単元構成の方法よりも先に、社会科の学習内容について議論が交わされていたことが明らかになってきている。このことは、小学校社会科の理念や学習方法論よりも先にカリキュラム構成が問題になっていたことを意味している。

こうした編集過程を辿ったことが、昭和26年版小学校社会科学習指導要領の特質と性格にどのような影響を及ぼしたのか。これは、今日までの研究には見られない視点であり、これまでに筆者が収集した史料を駆使しつつ、昭和26年版小学校社会科学習指導要領のカリキュラム構造を解明するとともに、その特質と性格を究明していきたいと考えている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

昭和26年版小学校社会科学習指導要領の編集に携わった長坂端午、上田薫、大野連太郎らの回顧録や論文、GHQ/CIE教育課の会議記録や週間記録については、最終年度もさらなる調査を続けていく必要が残されているが、研究計画の概要に記した(1)～(6)の資料調査・収集・整理は概ね順調に進行している。(7)については、資料の整理を進める中で考察を深めてきている。さらに考察を深めて、報告書にまとめていくことが最終年度である平成22年度の課題である。

4. 今後の研究の推進方策

今までのところ、本研究は概ね順調に進展してきているので、さらなる資料調査をすす

めるとともに、研究テーマに関する考察を深め、報告書にまとめていきたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

これまで、本研究の成果に直接的にかかわる発表は行ってきていない。他方で、本研究に間接的にかかわる社会科教育史研究の研究方法論に関しては、次のような発表を行ってきた。

[雑誌論文] (計1件)

木村博一「社会科教育研究の総括と社会科教育史研究の展望」日本社会科教育学会『社会科教育研究』第107号(査読有)、2009、pp. 15-26

[学会発表] (計1件)

木村博一「社会科教育研究の総括と展望」日本社会科教育学会第58回全国研究大会シンポジウム、2008年10月12日、滋賀大学教育学部